

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月11日

【評価実施概要】

事業所番号	270201676		
法人名	社会福祉法人弘前豊徳会		
事業所名	グループホームサンタの家		
所在地 (電話番号)	〒036-8311 青森県弘前市大川字中桜川18番地10 (電話) 0172-99-1115		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 21年 1月 22日	評価確定日	平成 21年 3月 11日

【情報提供票より】(平成20年6月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16年 3月 31日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	11人, 非常勤 3人, 常勤換算 7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	3 階建ての 2 階 ~ 3 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	6,000~冬期12,000 円	
敷金	有() 円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	380 円	昼食	480 円
	夕食	420 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(6月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	1 名	要介護2	6 名		
要介護3	8 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 81 歳	最低	54 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	田中外科内科医院、弘前小野病院、玉山歯科医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

りんご畑に囲まれ、四季が感じられる静かな場所に立地されている。事業所の敷地内には法人の事業所が隣接しており、事業所の多機能性を活かしながら、更に利用者の状態に応じ、家族と話あいながら法人内のサービスが、継続して利用できるような連携や支援があり、安心して生活できる体制が整っている。又職員は利用者の背景や、状態の情報を共有しながら話し合い、現状に服せず更に居心地良く生活して頂けるよう目標を持って取り組まれており、意欲や活気がある中で和やかな雰囲気のある事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	法人の土台となる理念を職員が理解しながら、地域との関わりについて職員と話し合いながら、事業所独自の理念を構築された。又内部、外部研修の充実を計画的に図り参加されている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員が外部評価について理解できるよう会議を開催し、話しあいを持つと共に、自己評価した内容については、現状に満足することなく殆どの項目において、さらにサービス向上に向けて目標を定め検討されている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月毎の定期的な開催により、参加メンバーも定着されつつある。事業所の行事や生活状況、外部評価結果の報告の継続と共に、その事柄について相談したり、意見、助言を頂きながら、その後のケアに活かしている。又、認知症の普及活動にも積極的である。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)
	面会時には、生活、健康状態を報告しながら、家族の意見、利用者の思いを聞き取ることができるような雰囲気作りに努め、話あいながらケアに反映されている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	ヘルパー研修や認知症の研修の受け入れを積極的に行っている。又法人の夏祭りに地域の方の参加を呼びかけたり、地域のゴミ拾いに利用者と共に奉仕活動に参加し、地域と交流ができる関係が次第に構築されつつあるので、今後も地域の住民の一員として関係が継続できるようすることが期待される。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体組織の理念をもとに、日々思いやりのあるケアに取り組み、地域に親しみを持って頂けるグループホームを目指すことを、全職員で話しあい、事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングや申し送り、日々の関わりの振り返りや、ケアに迷った時は理念を掘り下げ、個々の利用者の具体的なケアについて話し合い、実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	事業所の夏祭り等に地域の方の参加を呼びかけたり、地域主催の敬老会や自治会に参加したりしている。又近隣のごみ拾いに、職員と共に利用者も参加し、お互いに交流できるよう積極的にその機会をもたれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>職員会議を通し、評価のねらいや活用方法を全職員に伝え理解をした上で、全員で自己評価に取り組んでいる。外部評価の結果は報告と共に、改善に向けて検討し実践されている。</p>		
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回開催され、社協、民生委員、包括支援センター、家族、利用者等、各分野から積極的に参加されており、外部評価の結果や、取り組み等の報告と共に、取り組んでいる課題について助言や意見を頂いて運営に反映されている。</p>		
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>広報紙や事業所の情報提供等、ホームの取り組みを市の担当課に理解してもらえるよう折に触れ伝えている。又利用者の課題解決の為に相談するなど、考え方や実態を共有していけるようにしている。</p>		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>外部研修に参加し、研修後は報告と共に資料の閲覧、また機会があるごとに職員へ説明をしている。市の担当課の方から利用者の状況に応じて、アドバイスを頂いている。</p>		
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待防止法に関して、職員に理解浸透されるよう勉強会を実施し、虐待行為を発見した場合のマニュアルや、遵守に向けた取り組みを独自に行っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>必要に応じて自宅に訪問し、事業所の取り組みや方針を、本人や家族が不安にならないよう、丁寧に説明し同意を頂いている。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時には家族に声をかけ、又広報紙を通して、生活状況や健康状態、職員の異動等を報告している。金銭管理は出納帳を定期的に家族に報告している。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時や広報紙、運営推進会議を通して何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに配慮している。又家族から、意見や苦情があった場合は発生の要因を探り、課題の検討をしていく前向きな姿勢をもっている。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>信頼関係を築く為に馴染みの職員が対応することの重要性を考慮しており、担当職員の異動はなるべく行わないようにしている。異動があった場合は、利用者の状況を考えながら、引継ぎにおいて最善の努力をしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で職員のスキルに応じて外部、内部研修が計画され、職員が参加できるようにしている。又研修報告がある。		
14	18	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連の事業所の実習の受け入れや、勉強会を通して情報交換をし、交流を持つことでサービスの質の向上につなげている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族に事業所を見学して頂いたり、職員が自宅へ訪問したり等、安心してサービスが開始できるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員の良い関係が、会話の中から伝わり和やかな雰囲気である。職員が利用者の「こだわり」「不安」「喜び」「楽しみ」等の思いを理解しようとする姿勢が感じられ、お互いに支え、支えられる生活が構築されていた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>					
<p>1. 一人ひとりの把握</p>					
17	30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>家族の情報や毎日の関わりの中で、言葉や表情、行動を観察しながら、真意を汲み取り状態把握に努めている。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
18	33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者の日頃の関わりの中で、思いや希望を聞き取り介護計画に反映している。又利用者主体で具体的に分かりやすい、柔軟性のある介護計画である。</p>		
19	34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>安定している利用者であっても3ヶ月～6ヶ月毎に介護計画の見直しをしている。状態に変化があった場合には、検討見直しを行っている。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
20	36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>空き部屋を活用したショートステイや、共有スペースを利用したディサービス、家族の宿泊等、必要な時に必要なサービスを受けられるよう臨機応変にサービスを提供している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>事業所の協力病院はあるが、全ての利用者と相談しながら、入居前のかかりつけ医の受診を継続している。基本的には受診は家族対応となっているが、付き添いができない場合には職員が同行している。又受診結果は家族にその都度報告している。</p>		
22	44	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>医療連携に関わる指針を作成しており、重度化や急変時に備えての事業所の考えを入居時より説明をし、家族と話し合いながら、家族の気持ちの変化や、思いに配慮し支援している。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>勉強会の開催により、職員は個人情報保護法を理解しており、誘導の言葉掛けもさりげなく対応している様子が伺われた。又職員の中でのチェック機能があり、利用者の誇りや尊厳が守られるよう対応されている。</p>		
24	49	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な生活の流れを土台とし、ケアプランの柔軟性からも伺えるが、個々状態に応じた生活のペースが保持できるよう配慮されている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力量やその日の状況により、準備や後片付けを職員と共に作業をしたり、見守りや声がけをしながら利用者が役割を持ちながら、生き生きと活躍している。		
26	54	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	生活習慣や入浴する時間帯、希望を把握し、考慮しながら入浴を支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の生活歴や趣味等を把握しながら、得意な分野で力を発揮したり、楽しみになるように支援している。又職員は感謝の気持ちを言葉で伝えるようにしている。		
28	58	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望に応じたり、計画的に月1回の外食等の楽しみになるような支援が計画されている。又利用者の状態に合わせて、車椅子や福祉車両がいつでも利用できるような体制が整っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を開催し、職員は共通の認識を持っている。日々の生活や、その日のケアの状態に応じて、意識しながら拘束をしない支援に取り組んでいる。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が落ち着かなかったり、外出をしそうな様子が見受けられた時は、さりげなく声がけをしたり、行動を観察しながら、安全面に配慮し生活を支え、鍵をかけないケアを実践されている。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回法人全体で、消防署、地域住民の協力を得ながらの避難訓練を実施している。又事業所独自で、夜間想定しての通報、避難訓練を実施している。又備蓄は法人全体で準備されている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の要望や、希望を取り入れながら法人の栄養士が献立を作成している。又毎食後、個々の摂取状況を記録し栄養摂取量を把握している。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	事業所内で起こり得る感染症についてマニュアルが作成されており、勉強会を開催したり、情報提供することで、早期発見、予防に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>					
<p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>食堂スペースと、団欒できる共用スペースの空間がゆったりとして落ち着いた雰囲気がある。畳やソファ、食堂のテーブルと利用者が好きな場所で過ごせるよう配慮されている。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家族と話し合いながら、家庭で使用した馴染みの家具や、日用品を持ってきて頂く様にしており、個別に安心して過ごす事ができ、居心地の良い居室である。</p>		

 は、重点項目。